

# 事業評価シート（平成26年度分）

## 1. 事業の位置付け

事務事業名	バス利用促進事業		
事業担当	まちづくり政策部 交通政策課		
事業種類	ハード	ソフト	
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	利便性 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等	地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱		
対象・受益者	バス利用者	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 神奈川中央交通(株)】		
目的・目標		事業の概要	
路線バスが快適に利用できるようになり、市民のバス利用者が増加しています。		路線バスの利用を促進するため、バス停での待合環境やサイクル&バスライドの整備により、交通結節点の強化を図ります。	

## 2. 事業の検証

活動指標	指標名	バス利用促進検討会議開催回数(平成26年度から)			単位	回
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標 実績			3 7	3	
活動指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標 実績					
成果指標	指標名	バスの定時性・速達性向上の施策策定進捗率(平成26年度)			単位	%
	説明・算定式	H27年度を100%とした朝の通勤時間帯におけるバスの定時制・速達性向上の施策策定進捗率。H26: 施策の検討、H27: 施策の策定				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標 実績			50 40		
成果指標	指標名	バス停待合い環境整備の進捗率			単位	%
	説明・算定式	検討50%、整備50%				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標 実績				50	
成果指標	指標名	サイクル&バスライド整備の進捗率			単位	
	説明・算定式	検討50%、整備50%				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標 実績				50	
進捗状況	：若干遅れている					
	遅れている理由	バスの定時性・速達性向上の検討から、バス停待合い環境整備等の検討へシフトしたため。				
平成26年度の主な取組と成果						
バス事業者との協議を実施し、バスの定時性・速達性の検討については長期的な課題として位置付け、比較的短期間で効果が期待できるバス停待合い環境及びサイクル&バスライドの整備手法等の検討をしました。						
平成26年度の検証結果	B：おおむね成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	市民ニーズ 事業目的の達成状況 市の関与の必要性 その他	平成20年に行ったアンケート結果によれば、バス停の待合い環境(40%)や運行の定時制・速達性(42%)等の向上が望まれています。	高低
	有効性	上位施策への貢献 市民満足度を高める方策 継続による成果向上の可能性 その他	バス停の待合い環境や運行の定時性・速達性の向上は、バスの利用を促進し、平塚市総合交通計画でめざす交通体系の構築につながる有効な事業です。また、この事業は直接的に市民サービスの向上に効果的です。	高低
	妥当性	事業の目的、対象、内容 受益者負担、補助額 業務の執行体制(人員配置、業務分担) その他	中心市街地への自家用車の流入を抑制し、環境にやさしいまちづくりを進めるためには、公共交通の利便性向上を図る必要があります、その目的や内容に妥当性があります。	高中低
	効率性	業務プロセス改善による効率化の方策 コスト削減の可能性 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) その他	バス事業者に対する国の補助の活用等、事業者、国、市それぞれの適正な役割分担と負担のもと効率よく進めていく事業です。	高中低
今後に向けた課題の分析		バス利用を促進するためには、運行の定時性・速達性の向上が望まれています。課題解決には費用対効果の視点や長期的な方策での検討が必要になります。今後は、バス停での待合い環境の向上や、サイクル&バスライド等を取り入れた交通結節点の拡充により利用促進を図りたいと考えます。		

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額
事業内容		優先レーンの専用化社会実験の実施に向けた関係機関との協議	専用レーン化の社会実験の実施、バス走行環境整備事業の検討	バス走行環境整備事業計画の検討、公共交通優先信号等の検討	バス停待合い環境やサイクル&バスライドの整備に向けた検討
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0
執行率 (%)		-	-	-	

## 4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成28年度の取組方針	バス利用の促進を図るために、バス停の待合い環境やサイクル&バスライドの整備をバス事業者と連携して取り組んでいきます。
課長コメント	総合交通計画の戦略プランに掲げている通り、バス利用の促進は優先的に進める交通施策であり、効果的な施策の推進を図る必要があります。